

平和への一歩

気仙沼市立鹿折中学校 3年 三浦 楓

「平和」とはなんだろう。

インターネットで調べると「戦いや争いがなく穏やかな状態」など出てきました。確かに平和を目指す中で、戦争のない世界にすることは大きなことだと思います。しかし、今の私たち中学生が「戦争をなくす」ことに直接関わることは難しくもあり、他人事のように感じてしまう自分がいます。

だからこそ、私は「平和」について身近なことから考えてみました。私たちは小学1年生のときに、東日本大震災で大きな被害を受けました。また、この災害ではたくさんの命が奪われました。その中には、奪われなくてもよかったはずの命がたくさんありました。もう二度と津波で尊い命が奪われることがないように。行政や様々な人がそれぞれの方法で今も活動を続けています。でも、災害は津波だけではありません。実際、最近よくニュースで報道された西日本豪雨でも多くの命が奪われてしまったのです。元の形とはかけ離れた家の前で家族の帰りを待つ人や、家族との悲しい再会に泣き崩れる人の姿は7年前と重なるものがあり、心が痛みました。

多くの災害では、救えたはずの命がたくさんあったはずですが。そのような災害で救えたはずの命を少しでも多く救うことも平和への一歩だと私は考えます。

「救う方法があるのに、救えない命が多くある。」それは災害の場合だけに限りません。世界には病気を治す方法があるのに医療の設備が十分でなかったり、薬が足りなかったりすることで命を落としている人がいます。そんな世界も「平和な世界」とは言えないと思います。

私たちの学校では、生徒会の活動でペットボトルのキャップを集め始めました。一見、何の関係もないように思えますが、キャップを集めることは人の命を救うワクチンにつながります。この活動は昨年にも一度行っていましたが、そのときに初めて私たち中学生にも平和のためにできることがあることを知りました。このようなことでも、「平和な世界」にするために、私たち中学生が携わることができるのです。

このように、私たちができることを少しずつでも積み重ねるうちに、小さな平和が大きな平和になっていくと思います。それも一人ではなく、みんなが自分らしく積み重ねていくことで、できることが広がり、その先に大きな大きな平和が待っていると思います。

だからこそ、漠然と「平和のためにできること」と考えるのではなく、身近なことの中で自分にできることを積み重ねることで大きな一歩を踏み出していきたいです。

一人一人のまいた種でいつか大きな大きな「平和」の花が開くと信じて。